

3く3く

第10号

里山建築研究所筑波山麓録

特集

春風台の板倉
サスティナビレッジ鳴子板倉長屋
萱丸の板倉

01
04
07

Information

「いたくら6号」発行

08

report

さとやま工作所発足
ゲストハウス古民家「江口屋」オープン

08
08

『集まって住む』長屋特集

春風台の板倉



自転車小屋から長屋2棟を望む

春風台の板倉：写真 齋藤さだむ

茨城県つくば市に緑地と農地を一体として計画した住宅地「春風台」。その地区の北端、旧集落へと続く竹林を背に、遠くには筑波山を望む場所に建つ板倉の長屋である。緑と農のある暮らしができる、また内外装に木をふんだんに使いたい、という施主の思いから、菜園やペレットストーブを取り入れ板倉構法で建築した。

敷地正面には共有の自転車小屋が、長屋門のような役割を果たしている。そこに建物名「春風台の板倉」の木製看板が掲げられている。4戸1棟の長屋はメゾネット方式で東西に2棟並んで建ち、8世帯が住まう。周辺環境に配慮し建築の高さを抑え落ち着いた佇まいとした。

間取りは、1階に吹き抜けのある広間、台所、水回り、2階を寝室とし、各戸に2〜3畳のロフトがつく。広間南側には縁側、2階北側にはベランダを設け屋外に開かれたつくりとした。

角部屋と中部屋で仕様が異なり、角部屋は台所、水回りが土間床となり、ペレットストーブが設置されている。中部屋の1階床は板張り、2階の屋根裏収納が大きくとられている。



南側の夕景 丸太の独立柱が列柱のように並ぶ



中部屋 吹抜に丸太の登り梁

限られた空間を有効に使うために、水回り、広間、寝室、ロフトの4段のスキップフロアで断面を構成して開放的に過ごせるようにした。2階は屋根裏空間を活用し、天井高を最低限に抑えているが、ロフトの高窓からの採光により、明るく風通しの良い場となった。

敷地内にはシンボルツリーのハナミズキをはじめ、サルスベリ、ヤマボウシ、ミカン、柿の木が植樹されている。

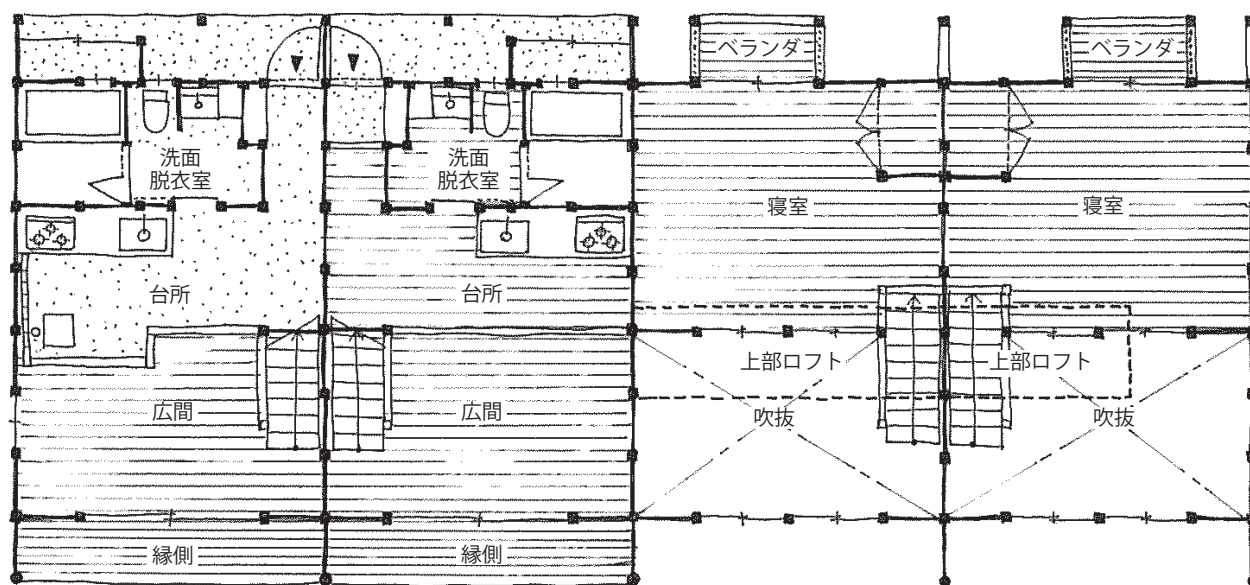
各戸の南側には小さな菜園が付き、将来、菜園を通じて居住者たちの交流の場となるよう期待が込められている。



角部屋1階 土間の台所



2階寝室 ロフトからやわやかな日差しがさしこむ



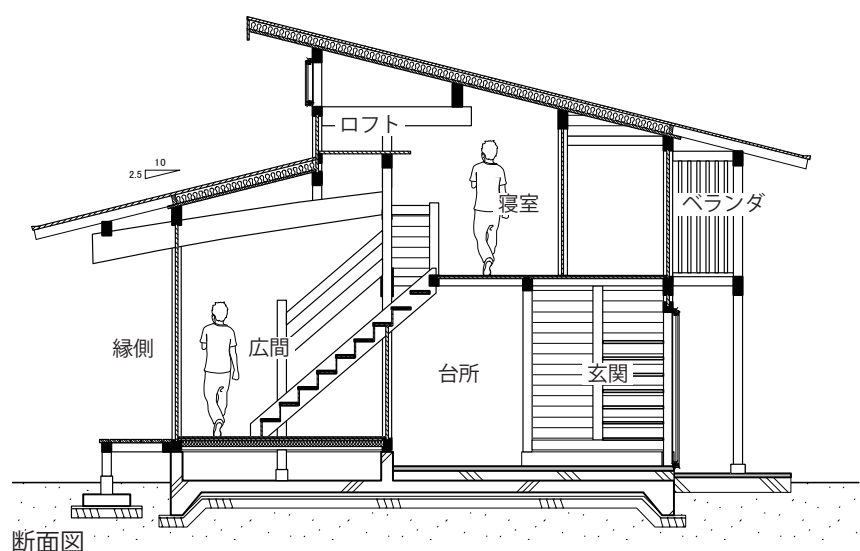
角部屋1階

中部屋1階

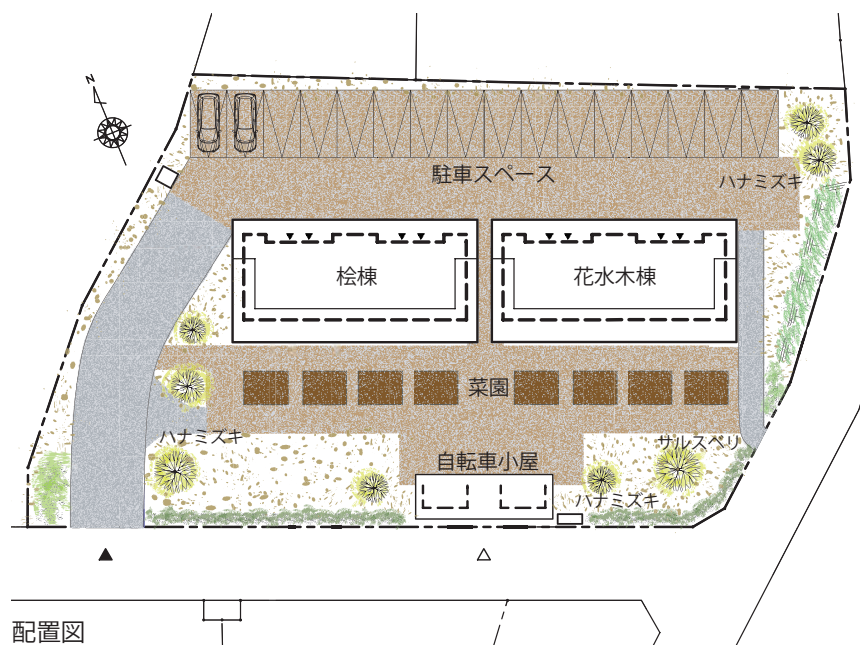
中部屋2階

角部屋2階

平面図



断面図



配置図



1階広間から縁側、菜園を望む 遠くに自転車小屋も

春風台の板倉DATA

延床面積 1棟あたり57坪×2棟
(1世帯あたり14.25坪)

外部仕上

屋根 ガルバリウム鋼板横葺き

外壁 桧棟 焼スギ板、スギ板 縦張り

花水木棟 焼スギ板、スギ板 下見板張り

建具 アルミ樹脂サッシ

内部仕上

床 ヒノキ本実板 厚15mm

角部屋一部、瓦骨材入りセメント研出し仕上げ、
鉄平石乱貼り

壁 スギ落とし込み板表し、
一部オガファーマーザー張りデュロン塗り仕上げ

建具 木製建具

設計 里山建築研究所

CM ミナクニコンサルタント

木材 八女木材協同組合

サステイナビレッジ 鳴子 板倉長屋



サステイナビレッジ鳴子板倉長屋：写真 齋藤さだむ

宮城県の北東部山あい位置する大崎市鳴子温泉郷。その背後の森の中にサステイナビレッジ鳴子が建設されている。地域の森林資源を最大限に活用し建築、生活エネルギーの自給を目指すものである。敷地内の施設は、すべて地元のスギ材を活用した板倉構法によってつくられる。そしてこのビレッジのエネルギーは木材チップを燃料としたバイオ発電プラントの排熱によって賄われる。

このサステイナビレッジ鳴子の一角に4戸1棟の長屋が4棟建つ予定である。3月に一期工事としての長屋2棟8戸が竣工し、入居がはじまった。この長屋に住む入居者は、森林整備で働く都市部からの若い移住者や、これからの温泉観光の担い手達であり、森林資源に基づくあらたなコミュニティづくりを目指す。

間取りはメゾネット方式で4戸1棟。1階2階ともにワンルームで1階北側に浴室トイレなど水回りがつく。ダイニングキッチンが1階にあるものと2階にあるもの、それが対面タイプと側面タイプの2通り。さらに1階土間、板の間の2通りある。それらの組み合わせにより8戸すべて間取りが異なる設計となっている。入居者は自らのライフスタイルに合わせて自由を選ぶことができる。

鳴子温泉は、多様な泉質と豊富な泉量に基づく、湯治温泉場としての長い歴史を持つが、近年の温泉観光の変化への対応が求められている。このエコビレッジは、温泉だけでなく森林体験や環境学習など多様な観光プログラムに対応するこ

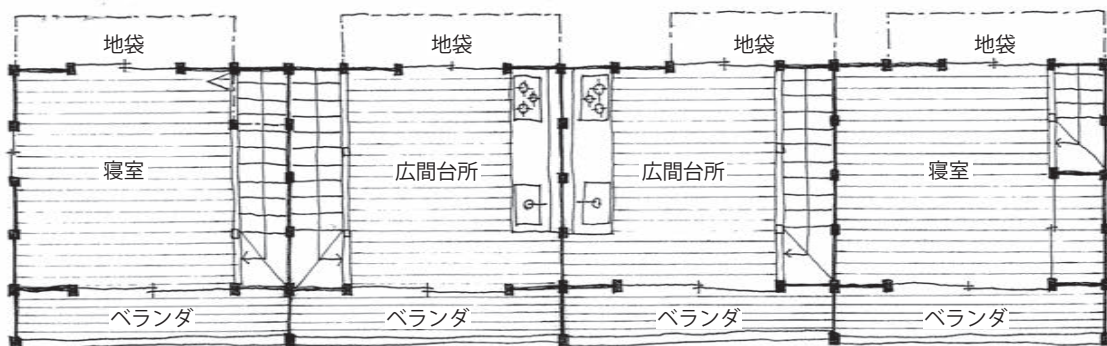


長屋南側 縁側とバルコニーが並ぶ

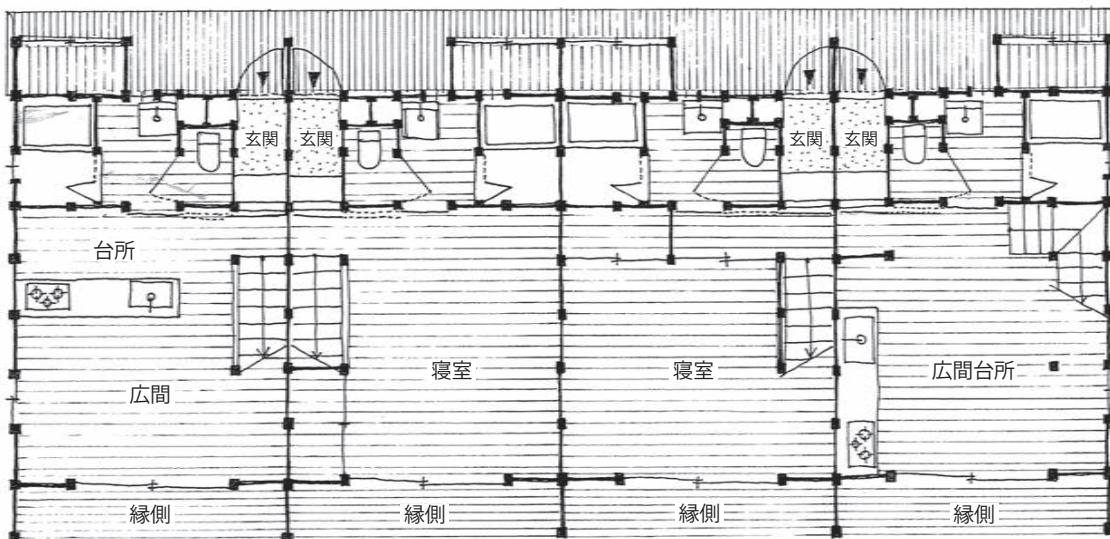


左／工事が進むサステナビレッジ鳴子 長屋の奥にはバイオ発電プラントが建つ。長屋の各住戸には、ファンコイルユニット方式の冷暖房、給湯がその排熱によって賄われる。その他にこのエコビレッジのセンター棟となるオーナーの住宅とその離れ、このビレッジを運営するNPOしんりんの事務所が。今後、森林体験施設としてのコテージ数棟及び、研修施設が建設予定である。

とで、地域振興の突破口としての、役割が期待されている。



2階平面図



1階平面図



2階広間台所タイプ



2階寝室タイプ



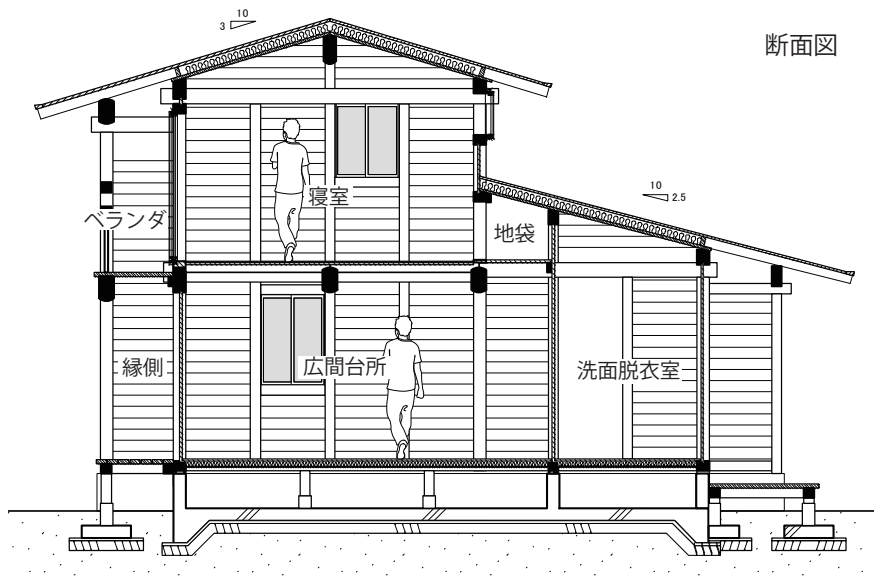
1階広間台所（対面式）タイプ 土間仕様



1階広間台所（側面式）タイプ 土間仕様



2階には地袋がつく



断面図

サスティナビレッジ鳴子板倉長屋DATA

延床面積 1棟あたり57坪×2棟
(1世帯あたり14.25坪)

外部仕上

屋根 ガルバリウム鋼板立ハゼ葺き
外壁 スギ板目板張り 木酢塗り仕上げ
建具 アルミ樹脂サッシ

内部仕上

床 ヒノキ本実板 厚15mm
一部、瓦骨材入りセメント研出し仕上げ
壁 スギ落とし込み板表し、
一部、Bドライ塗り仕上げ
建具 木製建具
設計 里山建築研究所
施工 サスティナライフ森の家

萱丸の板倉 DATA

延床面積：70.84坪
1世帯当り6.75坪

外部仕上：

屋根 瓦葺き
外壁 スギ粗木厚18mm
建具 アルミサッシ

内部仕上：

床 ヒノキ厚15mm
一部畳(本薬床)
天井・壁 スギ本実板厚12mm
一部土佐漆喰仕上げ
建具 木製建具

設計施工：里山建築研究所

CM：ミナクニコンサルタント

木材：那賀川すぎ共販協同組合



萱丸の板倉

日当たり良好な南面には畑のスペースがある



目隠しの植栽の裏には縁側と菜園

板倉の長屋「萱丸の板倉」で間もなく4年目の夏を過ごす佐藤さん。お気に入りのは縁側だ。快くインタビュにに応じていただいたのも縁側で、庭や畑に気軽に外向くことができ、空いた時間に庭いじりや農作業を楽しんでいると話す。室内の木の空間や杉の床板は柔らかくて心地よいので気に入っている。重いものを置くときは床板に傷がつかないように気をつかっているそうだ。

風雨に晒された板壁は、少し黒ずみ落ち着いた外観となり、月日が表れてきた。加えて佐藤さんの手によって夏野菜が作付けされると、家屋や田畑を大切に形成された日本の風景をどこか感じさせられる。住まい手とともに変化する萱丸の板倉のこれからが楽しみだ。

「いたくら6号」発行

里山建築研究所が事務局を務める日本板倉建築協会から年刊誌「いたくら」の第6号が発刊されました。

巻頭特集は、名古屋で活動する「森と子ども未来会議」によって企画・建設された学童保育施設「山里学童クラブ」。学童保育の環境として板倉がふさわしいと保護者の方々が望んで実現したものです。同じ名古屋市ではすでに2棟目の板倉学童保育が建設中で、3棟目も計画がはじまっているそうです。

創刊号より続く「復興と板倉」特集では、福島県いわき市の板倉仮設住宅を再利用した4つの事例が取り上げられています。この仮設住宅は2011年の東日本大震災の際、里山建築研究所が設計して福島県内に約100棟建設されたものです。すでに福島県営住宅団地、会津山塩企業組合事務所、岡山県総社市応急仮設住宅などで再利用が実現していて、「いたくら」の過去の号で取り上げられています。今号では、個人住宅やゲストハウスに再利用した事例を紹介。里山建築研究所の設計した「上ノ室の板倉」も掲載されています。

年刊誌「いたくら」は、1冊1000円で販売しています。また事務所のお隣の「カフェポステン」さんに創刊号から最新号までの見本誌が置いてあります。是非手にとって眺めてみてください。



report

さとやま工作所 発足

里山建築研究所内に新たに施工部門「さとやま工作所」がたちあがりました。私達が普段設計をしていると、よく建て主さんから「家にあわせてちょっとした家具をつくりたい」といった要望や、近隣の方から「古くなった家の一部を直したいんだけど・・・」といった相談をいただきます。こういった声に応えていこうと、小規模な工事の施工を請けるための体制を整えました。

筑波山神社への参詣道である「つくば道」からすこしはいった住宅地の裏山。大きな岩盤の上に建立された1坪ほどの稲荷神社があります。ここを守って管理していた人達が高齢でなかなか手が回らなくなり、玉垣（社を取り囲む柵）は腐朽してしまにも崩れ落ちそうになっていました。「大切に守られてきた稲荷神社を甦らせたい」との思いで新たに管理することになった人から声をかけてもらって、さとやま工作所で玉垣の改修工事をしました。

さとやま工作所では、いま複数のプロジェクトが進行中。次号以降の「ろくろく」やブログ「里山通信」などでも紹介する予定です！



ゲストハウス古民家「江口屋」オープン



霞ヶ浦を望む歩崎公園の前に、明治期の茅葺きの古民家を改修した、弊社設計監理によるゲストハウスが竣工しました。

この建物は延床面積約190㎡で中央の土間を挟んで、左に広間座敷、右側にかつて元酒造所・郵便局が営まれてきました。

今回の改修で中央の土間を畑の広がる裏庭に開き、みんなが集まれるオープンキッチンとしました。オープンキッチンを中心に4つの宿泊室が設けられています。裏庭の昔ながらのかまどと井戸をそのまま残し、地域の食材を使った食の体験を楽しめるようにしています。また、この建物に親しみをもってもらうために、講師を招いて土間叩きや障子張りを参加者とともに行いました。

竹林の広がる裏庭は、今後農業体験の場として菜園や果樹園に、敷地内に残る土蔵は醸造所としての利用が検討されています。

※ゲストハウス古民家「江口屋」は茨城県とかすみがうら市による、「古民家を活用したブランド力向上事業」として整備されたものです。霞ヶ浦の周遊観光の棧橋とサイクリングロードの整備による、観光客の増大が見込まれ、その受け入れ施設として注目されています。2020年7月下旬オープン予定。http://www.kasumigaura-kankou.jp/eguchiya/

株式会社 里山建築研究所

〒300-0431

茨城県つくば市北条一八四

TEL: 029-867-1086

FAX: 029-867-1083

URL: https://satoyama-archi.jp/

E-mail: satoyama-archi.co.jp

会社概要

里山資源を生かした居住スタイルを探る実践的な試みの場として、筑波山の山裾に開設したのが、里山建築研究所です。

現代の里山に循環を取り戻すべく考案された板倉の家を提案し、時代の趨勢によって変わり続ける民家の現代のかたち

を探ることが、私達の試みです。

しごと

設計・設計監理・工事請負

「板倉の家」…新築、改築

「民家再生」…改築、移築

「茅葺き」…葺き替え修繕、新築

「企画制作、調査研究」

「地域づくり支援活動」

編集後記

今回の特集は茨城県内で竣工した事例が多いです。建物が近隣にあると建物の様子や変化を感じられて嬉しいです。

